

アジア諸国における観光に関する研究

東 美晴
根橋正一
井上 寛

本年度は、2003年度より3年計画で進めている科学研究補助プロジェクト「グローバル化時代のアジア諸国の観光に関する包括的研究（研究代表者：根橋正一，研究分担者：米田和史・八田正信・東美晴・朱思琳・呉軍）」の2年目である。本年度この研究に関わる現地調査としては、ヴェトナムおよび中国において実施した。ヴェトナムでは9月に3週間の日程で、根橋、米田、八田、東、呉が参加して、南部のホーチミン、ブンタウ、ミトー、クチ、ダラット、ニャチャン、ファンティエットなどで行政関係者、観光関係者・観光研究者などを対象として調査した。また、中国調査は上海および雲南に根橋・東・朱・呉および井上に参加して行われた。上海では旅行者や観光関連企業における調査や観光地の行政、企業に対する調査などを行うとともに市民に対する娯楽意識、観光意識を中心とする聞き取り調査を行った。この間、メンバーは研究グループ内ばかりでなく学外の研究者たちとの研究交流を進めてきた。また2005年1月には上海において市民を対象とした量的調査を計画している。2月にはスリランカ調査を計画し、その準備をしている。

このような活動の一環として本号には、前号に続いて論文、研究ノート、調査ノートをそれぞれ1本ずつ投稿する。

東の論文は、本年の上海調査における聞き取り調査データから得られた知見を出発点として、山岳観光の動向についての考察したものである。これはまた、山岳観光への着目は『社会学部論叢』28号の論文「山岳観光の社会史－＜立山・黒部アルペンルートの旅＞を通して」から引き継がれている一連の研究の一部であり、東アジア社会における山岳の意味を考察する意欲と広がりを持っている。

根橋の研究ノートは『社会学部論叢』28号および29号掲載の論文、研究ノートの続編にあたるもので、世界経済システムと国際観光の関係に関する研究のための諸資料を提示するものである。

根橋と井上の調査ノートは、上海における聞き取り調査のデータを整理するものであ

る。上海のような経済的に優位な都市の住民の中で活発化している旅行や観光活動に関していくつかの視点から整理を試みたものである。なお、井上は現在本学大学院社会学研究科博士課程に在籍する学生で、本調査には研究補助員として参加している。